

己の命を守り 仲間の命を守りてこそ 人の命を救えるなり

～名古屋市消防局の課題への取り組み～

名古屋市消防局長 半田 修広



現在、名古屋市消防局では、東日本大震災から12年が経過し、発生の可能性が高まっている南海トラフ地震に立ち向かうための準備を確実に進めることを大目標としております。南海トラフ地震により想定される被害に、消防局の力だけでは太刀打ちできないことは明白であり、消防局の体制強化を図っていくことは勿論のこと、地域の力を育むことが何より重要となります。

そのために、消防団との連携による災害対応能力の強化、自助・共助のベストマッチによる地域防災力の強化を推進しており、施策の1つである、消防団員や区役所職員等と連携した戸別訪問事業では、消防職員が市内の全113万世帯に足を運び、直接市民と面会して防災啓発を行い、各家庭の実態を把握したうえで必要な防災対策を提案し、動機付けとして家具の固定器具などの防災用品を配付して確実に対策に結び付けることで地域力の向上に努めております。

また、火災件数が減少傾向にあり、消防隊員の現場経験の少なさが課題となる中でも、火災の傾向に合わせて訓練想定や訓練場所の設営に工夫を凝らした有効な訓練を行うことで、初動対応から継続する消防活動能力の強化を図っております。

更には、広域的な消防体制の充実を図るためには、本市だけではなく愛知県全体のレベルアップも必要であり、これに向けては、昨年度から愛知県防災ヘリコプターの受託運用を開始しています。これにより、現在、名古屋市の消防ヘリコプター2機と合わせて3機体制で愛知県全域の災害対応を行っており、必要に応じて近隣の県にも出動しております。

今後も指令センターの共同運用や本市と愛知県との消防学校の統合等を進めることにより、県下消防本部や関係部局との連携を一層強化してまいりたいと考えています。

その他にも、救急出動件数の増加による救急体制のひっ迫、今後も増加していく高齢者世帯への防火対策など、多くの課題を抱えておりますが、これらの解決に向けても「責任感」「スピード」「好奇心」の3つを重んじて、様々な施策ひとつひとつに全力を挙げて取り組んでまいります。

私自身は、消防の本質は現場であるという「現場主義」にこだわり続けております。消防の現場は常に困難で危険と隣り合わせですが、その先に救うべき命があります。

現場では、起こったことを瞬時に理解し、判断し、対応することが求められ、これを誤れば、仲間の身や己の身をも危険に晒すこととなりかねないことから、安全管理は当然のこと、危機管理能力も研ぎ澄ませなければなりません。消防におけるすべての職務は、安全・確実な現場活動に通ずるものと考えております。

当局には、過去の現場活動の教訓として「なごやしょうぼういのちさんくん名古屋消防命三訓」が掲げられています。この言葉の通り、己の命を守り、仲間の命を守ってこそ、人の命を救うことができると私は信じています。

名古屋消防命三訓
己の命を守り
仲間の命を守りてこそ
人の命を救えるなり